

市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2023年	10月	18日	(記入者) 小西 和子	
取材参加者	荒井	垣内	久門	小西	島田
	鶴田	横山			
取材対象先	黒滝村：栗飯谷区の木造菩薩頭				

所在地	吉野郡黒滝村栗飯谷205、正西寺				
所有者(取材 対応者)名	栗飯谷区(***区長)	***氏	連絡先 ***		
	***氏		PCアドレス		
取材申込	申込先・行政名など：黒滝村企画政策課 佐田さん				
市町村 指定文化財	彫刻	1 軀	木造菩薩頭 1990(平成2)年2月1日指定		
	建造物	棟			
文化財指定理由	平安時代の「都ぶり」と評される温和で優雅な仏頭である。檜材の一木割刳造であったと推測され、現状頭部前面を残す。両耳および耳後、左小鼻、天冠台下の左右の髪などに漆箔の一部が残る。(黒滝村教育委員会「黒滝の仏像」参照)				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	火の気の無いよう灯明は電灯に代えられており、普段はブレーカーも落としている。内陣前左右に消火器が置かれている。	地域の財産として守るため火災が起きないように注意してもらえる。
	被害の有無、対策など	記入者の感想
獣害対策	付近はイノシシ、シカ、テンなど多くの野生動物が出没している。特にヤモリが大量に発生しており、お堂内部にまで侵入して糞をするので困っている。	静かな山里で野生動物は珍しくないが、お堂内部への侵入はない。ヤモリの糞については各季節の法事などの際に清掃されている。
保存～継承 へ 苦労と 今後の課題 と対策	現本堂は1902(明治35)年に建てられた重厚なものである。春秋の彼岸、春の永代経、盆、秋の報恩講などの行事が行われている。地域の寄付などによって維持しているが、実質檀家は15軒となり、多くが60歳以上で若い人が少ないので今後が心配されるという。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

重厚な本堂内には本尊阿弥陀如来立像のほか、開基仏画像や宗祖聖人御影像などが丁寧にまつられており、本菩薩頭も仏師(矢野健一郎氏)が拵えた台座に固定され安置されている。30.5cmの高さで内ぐりがあり、持ち運べる重さである。耳後ろに残る漆や金箔がはっきりと見られ、もとは垂飾をつけていたと思われる天冠台の紐の釘穴も残っている。白毫は無くなっていたが、台座を作った仏師によって補われている。

市町村指定文化財取材票《裏》

取材日	2023年	10月	18日	(記入者) 小西 和子	
取材参加者	荒井	垣内	久門	小西	島田
	鶴田	横山			
取材対象先	黒滝村：栗飯谷区の木造菩薩頭				

〈写真撮影許可済み〉

文化財指定名 木造菩薩頭

文化財 (正面写真)	文化財 (角度を変えて、写真)
	
文化財 (安置状態の全体写真)	本堂外観
	
文化財の由緒などを記入	所有社寺や地域 (廃寺等) の歴史や特徴を記入
<p>伝承では、大淀町榎垣本の八幡神社の御神体として祀られていたものを栗飯谷にいた氏子の不便さを考え分身し、頭部だけが春日神社のご神体としてまつられた。明治の神仏分離で正西寺に安置された。当初はおそらく等身大の大きさで、漆箔が所々に残っていることから、全身が金色の姿をしていたとみられる。「都ぶり」と評される平安後期の様式的特徴を備えている。(黒滝村教育員会「黒滝の仏像」参照)</p>	<p>元は真言宗の寺院だったが、浄土真宗の善信の下で修行を積んだ聖空が栗飯谷に入り、鎌倉時代の1212(建暦2)年に浄土真宗に転宗し、間谷(あいだに)寺と称した。後にここを拠点に浄土真宗が黒滝村の各地に広がった。1597(慶長2)年、越後の慈静が入り中興の祖として本堂を再建、1614(慶長19)年に正西寺と公称するようになる。現本堂は1902(明治35)年、先々代八尋揚清和尚の時に建て直された。(「黒滝村史」参照)</p>